

内牧地区公民館・内牧南公民館

◇運営の基本方針

生涯学習の拠点として、住民の学習要求に即した事業を展開し、各種情報を提供する。
また、地域団体・組織と連携し、地域連帯意識の高揚と生活文化の発展を図る。

◇重点施策

- 1 住民の学習要求に応え、学習機会の充実を図るため生涯の各時期に応じた事業を実施する。
- 2 地域住民の連携と活性化を図りつつ、自治意識を高めるため地域全体で取り組む事業を実施する。
- 3 自然に恵まれた特色を生かして、地域住民が喜びを感じる事業を実施する。

◇重点事業

- | | |
|----------------|--------------|
| 1 デジタルデバイド対策事業 | 2 趣味の講座・教養講座 |
| 3 内牧地区体育祭・文化祭 | 4 内牧ふれあい講座 |

内牧地区公民館

所在地 〒344-0051 春日部市内牧4398番地
TEL 048-752-3255
FAX 048-752-3255
E-mail uchikou@city.kasukabe.lg.jp



内牧南公民館

所在地 〒344-0051 春日部市内牧1498番地
TEL 048-761-0065
FAX 048-761-0065
E-mail uchinankou@city.kasukabe.lg.jp



職 員	館 長（兼務）	島 崎 勇 治
	主 査（兼務）	吉 久 高 秀
	主 任（兼務）	大 脇 久 男
	主 任（兼務）	赤 坂 亮 祐（社会教育主事）
	フルタイム（兼務）	金 子 喜久江
	フルタイム（兼務）	手 塚 克 己

事業名 テーマ	子育てサロン うちまきプレイルーム	対象	未就学児とその家族	定員	自由参加 企画により 定員設定		
ねらい	気軽に保護者・親子で遊べるスペースとして公民館を開放し、イベント実施と併せて、乳幼児を抱える保護者同士のコミュニケーションの場とする。						
協力機関 及び団体	内牧地区更生保護女性会 他	特色 位置づけ	子育て支援事業 重点事業	SDGs の目 標No	3		
会場	内牧南公民館	教材 資料等	遊具・玩具・絵本 等				
実施までの経過	4月 事業計画書提出 計画の公表・配布・配信	PR方法	広報かすかべ 公民館だより SNS				
		受付方法	原則自由参加 一部企画は定員設定あり				
月日(曜)	時間	内 容	方法	参加者			講師・助言者の職名 氏 名
回数	総時間数			男 計	女 計	合計	
4月7日(木)	10:00～12:00	こいのぼり作り	体験	10	21	31	内牧地区更生保護女性会 大塚果樹園
5月11日(木)	10:00～12:00	カフェタイム	座談会	5	7	12	
6月1日(木)	10:00～12:00	バルーンアート	体験	3	16	19	
7月6日(木)	10:00～12:00	七夕かざりを作しましょう	体験	6	13	19	
8月3日(木)	10:00～12:00	ヨーヨー釣り	体験	2	7	9	
9月7日(木)	10:00～12:00	カフェタイム	座談会	3	1	4	
10月5日(木)	10:00～12:00	キャンディレイを作しましょう	体験	10	5	15	
11月2日(木)	10:00～12:00	クリスマスサンタを作しましょう	体験	5	9	14	
12月7日(木)	10:00～12:00	みかん狩り	体験	17	16	33	
1月11日(木)	10:00～12:00	カフェタイム	座談会	1	1	2	
2月1日(木)	10:00～12:00	おひな祭り	体験	1	5	6	
3月7日(木)	10:00～12:00	カフェタイム	座談会	2	7	9	
12回	24時間			65	108	173	
企画運営上の工夫	例年通り、開催日を毎月第一木曜日とし、参加者が忘れないよう開催日設定を行った。広報活動もこれまでの公民館だより中心から「安心安全情報メール」を活用し広く多くのみなさんに伝達できるようにした。						
成果 参加者の 声など	コロナ明けということもあり、参加者の増加も見込まれたが、結果的には、他の多様なイベントも各地で開催されたこともあり、参加者数は昨年と比較し横ばいであったが、参加者が、笑顔で帰る姿には満足感が満ち溢れていた。						
課題と展望	こいのぼり作り、七夕かざり作り、みかん狩りなどのイベント実施時は参加者が多かったが、カフェタイムの際は少なかった。カフェタイムの意義を再考すると共に、活性化策の検討などをしていきたい。						

事業名 テーマ	幼児家庭教育学級		対象	3歳前後の 幼児と保護者		定員	第1回:10組 第2回:20組
ねらい	子どもたちの健やかな成長を願い、人間形成の上で最も重要な時期である幼児期の発達段階を正しく理解し、望ましい親子関係や家庭環境、健康生活について学ぶ。同世代の子どもを持つ親同士で交流することで、パパママ同士の繋がりを生み出す。						
協力機関 及び団体	東武動物公園		特色			SDGs の目 標No.	3
会場	第1回:内牧南公民館 第2回:東武動物公園		教材 資料等	第1回:プログラム 第2回:動物とのふれあいのしおり			
実施までの経過	3月	実施内容検討、講師折衝・依頼	PR方法	うちまきプレイルームにて周知			
	4月 6月25日	公民館だより4月号掲載 第1回講師と打ち合わせ		公民館だより 館内・他公民館にポスター、チラシ SNS			
	12月、1月 2月 3月	第2回打ち合わせ 公民館だより掲載 プログラム・しおり作成	受付方法	窓口および電話			
月日(曜)	時間	内 容	方法	参加者			講師・助言者の職名 氏 名
回数	総時間数			男 計	女 計	合計	
6月25日(日)	10:00～11:30	ヨーコ&リョーコ音楽祭	体験	16	24	40	當間遥子、高田涼子
3月23日(土)	10:00～12:30	動物園へ行ってみよう	体験	24	23	47	東武動物公園 動物園事業部
2回	4時間			40	47	87	
企画運営上の工夫	参加者同士の交流を促すために安心感のあるリラックスした雰囲気づくりを心掛けた。他事業と併催にしたことで準備をスムーズに行うことができた。プログラムやしおりを子どもにも分かりやすいように作成した。						
成果参加者の声など	1回目は音楽系ということで「皆でワイワイする事やおどったり歌ったりすることで、親子共々楽しめました!」との声をいただき、楽しい雰囲気で参加できた様子だった。2回目は動物園での開催ということもあり、「家族で入園した時には味わうことが出来ないような経験をさせてもらいました。」との声をいただき、満足度の非常に高い結果となった。 ほかに子育ての悩みについての講演などがあると助かるという意見があった。						
課題と展望	今後も1回目の開催内容は重要であるとする。親子で楽しむという観点から体験型・鑑賞型の内容が好まれるので今後も感染予防対策を十分に考慮し内容を考案したい。						

事業名 テーマ	家族ふれあい教室 うちまき蝶の観察会 ～お気に入りの蝶が見つかるかな～		対象	幼児以上と その家族		定員	約15組	
ねらい	夏休みを利用し、内牧地区の豊かな自然を活用した野外活動体験を通し家族がふれ合える機会を提供する。その中で、地区内に生息する蝶の観察等を通して、さらに自然に興味を持ち、楽しく学び合い家族の交流がより深められることを狙いとする。							
協力機関 及び団体			特色 位置づけ	内牧の自然を生 かした講座		SDGs の目 標No.	15	
会場	内牧南公民館 内牧公園(お花見広場付近)		教材 資料等	レジュメ(テキスト)、蝶リスト 蝶の標本				
実施までの経過	6月 8日(土)第1回打ち合わせ講師折衝 7月 6日(木)第2回打ち合わせ 7月 28日(金)第3回打ち合わせ講師依頼書 ポスター掲示 8月 1日(火)受付開始 SNS 配信 8月 27日(木)事前検討会(樹脂埋め) 9月 3日(土)実施		PR方法	館内ポスター・チラシ SNS 公民館だより				
			受付方法	直接または電話で内牧南公民館に 申込み 先着順、定員になり次第締め切り				
月日(曜)	時間	内 容	方法	参加者			講師・助言者の 職名:氏名	
回数	総時間数			男	女	合計		
9月3日(日)	8:50 9:00～ 9:20～ 11:20～ 12:20～ 12:30	内牧南公民館集合 講師紹介、諸注意 講義 蝶の説明と捕虫網の実演 捕蝶・昆虫観察 昆虫採集終了 レジンクラフトづくり 標本づくり 講師Q&A、アンケート 講評 解散 	実習 	17	15	32	講師:伊藤有三 	
1回	3時間30分			17	15	32		
企画運営上の工夫	今年度は、これ迄と趣向を少し変え、蝶の自然観察に加え、標本のレジンクラフトづくりを実施した。教育的な視点を考慮し子ども視点でQ&A集を講師と共に作成し配布した。							
成果 参加者の声など	開催時期が例年の7月末～8月初旬と異なり、観察できる蝶の種類はやや少なかった。それでも、蝶を追いかける子どもの動きは活発であり、保護者との会話も弾んでいたようだ。有償のため、レジンクラフトづくりへの参加は懸念されたが、全員参加、中には複数個のレジンクラフトづくりを申し込む家族も多々おり、盛況であった。講師とのQ&Aも活発になされ、賑やかな催しとして終えることが出来た。							
課題と展望	レジンクラフトづくりに限らず、思い出作りに花を添える様々な並列イベントを加え、毎年参加していただけるような企画を継続検討していきたい。							

事業名 テーマ	青少年体験教室 キッズフェスタうちまき 2023		対象	幼児 青少年		定員	なし	
ねらい	幼児、小中学生を対象とし、遊び、学び、交流するイベントを通して、日常とは違う時間を、家族共々過ごしていただく。							
協力機関 及び団体	東武鉄道(株)春日部駅 共栄大学 国際経営学部 伊藤ゼミ 春日部工業高校 電気科、(福)ともに福祉会、(福)めだかの学校			特色 位置づけ	家族で交流 産官学連携		SDGs の目 標No	4
会場	内牧地区公民館			教材 資料等	協力機関からの遊具(ゲーム・模 型)及び関連資料 公民館からの案内テキスト			
実施ま での経 過	5月中旬 企画検討/相談・打診 7月初旬 実現内容の調整・計画 9月初旬 施設予約 9月中旬 飲食・物販の検討 10月初旬 広報(公民館だより・SNS) 事前募集(制服着用体験)			PR方法	公民館だより チラシ SNS			
				受付方法	①定員制イベント:電話・窓口受付 ②自由参加型:受付無し			
月日(曜)	時 間	内 容		方法	参加者			講師・助言者の職名 氏 名
回 数	総時間数				男 計	女 計	合計	
10月22日(日)	10:00~15:00	鉄道ワールド ゲームワールド 東武鉄道コーナー		体験 見学	184	184	368	
1回	5時間0分				184	184	368	
企画運営上 の工夫	従来の納涼祭に代わる事業として、子どもに人気の鉄道会社の制服着用、鉄道模 型の走行・展示、写真展の開催、体験型ゲーム参加が出来るように企画を立案し た。実施にあたり、内牧地区に関係の深い大学・高校・企業と連携し、地域で事 業を盛り上げることも狙いとした。併せて館内で長時間滞在していただける様 に、物販やパンなどの飲食販売も行うこととした。また、普段、コミュニケー ションをとる機会の少ない父親との参加も出来る様に日曜日に開催した。							
成果 参加者の 声など	日曜開催もあり、期待通り子どもを中心にお出掛する家族層やこれまで縁遠かつ た父親層に来館していただけた。子どもたちは、楽しそうに会話をし、ゲームや 様々な体験イベントを楽しみ、大きな歓声があちらこちらから聞こえ明かつ た。初のイートインコーナーの設置は、公民館滞在時間を延ばし、イベントに じっくり参加することに役立った様である。出展者からも、今後も継続した開催 に向けた前向きなご意見を多々頂き、次年度開催の実現性にも弾みがついた。							
								
課題と展望	多彩なイベントが準備出来たため、広く市内全域から、幅広い子ども、家族層の来館者 をお迎えすることが出来た。一方で、多様な出展者との調整が難しかった。次年度以降 は、早い段階からのコンセプト設計とともに調整を心掛けたい。							

事業名 テーマ	青少年体験教室 障がいのある子どもと家族の交流会 キッズ交流ステーションうちまきⅠ・Ⅱ		対象	障がいのある子どもとその家族		定員	各15組 程度	
ねらい	障がいのある子どもとその家族に向けて、同じ様な特徴・個性を持つ方々をつなげる機会を作る。また、親子・家族で孤立しない様に相談・情報交換の場を開設し、交流を支援するとともに、地域社会における共生に向けた活動も行う。							
協力機関 及び団体	特別支援学校、支援級、障がい者支援課、ふじ学園、自立支援協議会子ども部会、市内事業者、親の会、第七保育所、共栄大学 他多数		特色 位置づけ	家族で交流		SDGs の目 標No	10	
会場	内牧地区公民館、内牧南公民館 他		教材 資料等	パンフレット				
実施までの経過	3月 企画検討 関連部門調整 4月～ 方向性決定 関連団体打ち合わせ チラシ、パンフレット作成 協力依頼		PR方法	チラシ SNS				
			受付方法	窓口および電話 NPO・ボランティアによる代行				
月日(曜)	時間	内 容	方法	参加者			講師・助言者の職名 氏 名	
回数	総時間数			男 計	女 計	合計		
6月3日(土)	13:00～16:00	避難所設営&座談会	体験	15	15	30	親の会Happy、自立 支援協議会子ども部 会、ともに福祉会ぼっ けのおうち、シェルフ 春日部、はるいろ	
6月10日(土)	10:00～12:00	ジャガイモ堀	体験	11	11	22		
8月22日(火)	13:00～16:00	交流会	会合	11	11	22		
9月16日(土)	13:00～16:00	美術作品を作ろう	体験	15	15	30		
11月4日(土)	10:00～12:00	さつまいも堀	体験	11	11	22		
11月28日(土)	11:00～14:00	座談会	会合	6	6	12		
12月17日(土)	10:00～16:00	星空観賞とコンサート(別紙)	体験	102	102	204		
2月10日(土)	13:00～16:00	講演会(別紙)	会合	44	44	88		
8回	25時間			215	215	430		
企画運営上の工夫	公民館の利用機会が少ない障がいのある子どもと家族の課題について、市場調査、市内の実情調査を行い、交流会の必要性を確認し、保護者、施設などの関係者と連携して開催した。家族全員で参加が可能となる様に、土曜午後の開催を基準とした。							
成果参加者の声など	初めての取組だったが、年度内に8回開催出来た。様々な関係者の多大な協力もありプログラムは進められた。子どもたちの「楽しかった」という反応と、保護者から様々な期待と具体的な改善要望をいただく事が出来た。父親にも数回参加いただき、母親とは違う側面の話しを伺うことが出来た。							
課題と展望	参加者の状況や考え方は多様であり座談会のテーマの絞込みは難しかった。今後は意見交換を繰り返し、多くの子ども、家族に価値ある内容を考えていく。事業の特性を踏まえ、使用する言葉、資料展開する際の用語使いなどは注意して進めていきたい。							

事業名 テーマ	青少年体験教室 子どもたちの作品展 ～キッズ交流ミュージアム～		対象	一般 障がいのある子ども		定員	なし	
ねらい	障がいのある子どもとその家族に向けて、同じ様な特徴・個性を持つ方々とつながる機会を作る。また、親子・家族で孤立しない様に相談・情報交換の場を開設し、交流を支援するとともに、地域社会における共生に向けた活動も行う。							
協力機関 及び団体	内牧小学校 他市内外11施設・事業者他		特色 位置づけ	地域社会における共生の推進		SDGs の目標No	4・10・11	
会場	内牧地区公民館		教材 資料等	各種展示作品				
実施までの経過	8月中旬	構想検討、事前調整 市内11学校・事業者 作品制作(第七保育所) 各施設に美術作品の提供依頼	PR方法	公民館だより チラシ SNS				
	9月下旬～10月		受付方法	自由参加				
月日(曜)	時間	内 容	方法	参加者			講師・助言者の職名 氏 名	
回数	総時間数			男	女	合計		
				計	計			
11月1日～11月12日	9:00～17:00	研修室Ⅰ（文化祭併催）	観賞 観賞 観賞	325	325	650		
11月12日～12月17日	9:00～17:00	展示室前						
12月17日	9:00～17:00	星空観察＆コンサート 併催						
3回				325	325	650		
企画運営上の工夫	障がいの有無に関わらず、子どもたちの作品披露を共生社会を目指す事業として企画した。子どもたちの所属する学校、事業者団体ご理解ご協力をいただくため、多岐に渡り説明した。多くの方に鑑賞していただくため、長期間展示できるよう事前調整した。							
成果参加者の声など	多くの協力機関及び団体の積極的な支援を受け、来場者数カウントを始めてから650名となり、長期展示の効果が確認できた。文化祭、クリスマスイベントでは、飲食・物販との併催により、多くの参加者が長い時間公民館に滞在し、作品を鑑賞した。「作品を制作する姿に感動した」「障がいのある子どもの実態を少しだけ考える機会になった」「大いに楽しむことも出来た」との感想をいただいた。							
課題と展望	地域社会における共生を目指すため、障がいの有無に関わらず働きかけが必要だが、様々な状況の方がおり、訴求の仕方が違う為、効果的な訴求方法については改めて考えていきたい。次年度以降も発展開催できる様に努めていく。							

事業名 テーマ	青少年体験教室 星空観賞とコンサート ～音と光のページェント～	対象	一般 障がいのある 子どもとその家族	定員	なし		
ねらい	障がいのある子どもとその家族に向けて、同じ様な特徴・個性を持つ方々をつなげる機会を作る。また、親子・家族で孤立しない様に相談・情報交換の場を開設し、交流を支援するとともに、地域社会における共生に向けた活動も行う。						
協力機関 及び団体	NPO法人はるいろ 地域住民の皆さま 内牧小学校他9施設	特色 位置づけ	地域社会における共生の推進	SDGs の目標No	4・10・11		
会場	内牧地区公民館	教材 資料等	プログラム				
実施までの経過	6月上旬 7月下旬 11月1日 11月中旬 11月下旬 12月1日	事業協力者との打合せ 演奏者(2団体)出演交渉 美術作品の提供依頼 演奏者へ依頼 SNS配信、チラシ配布 公民館だより掲載 事前予約受付開始	PR方法	SNS 公民館だより チラシ(学校・高齢者施設・保育所・事業者)			
			受付方法	プラネタリウム鑑賞・オカリナ体験は、事前予約制(電話または窓口)			
月日(曜)	時間	内 容	方法	参加者			講師・助言者の職名 氏 名
回数	総時間数			男 計	女 計	合計	
12月17日(日)	10:00～16:30	プラネタリウム鑑賞(予約制) ロビーコンサート (オカリナ体験あり) イルミネーション 作品展示 物販	観賞 観賞 観賞 観賞 観賞	97	107	204	星つむぎの村 ほりほり オーケストラ 野田明子(オカリナ) 上田幸江(オカリナ)
1回	6時間30分			97	107	204	
企画運営上の工夫	地域社会における共生の推進のための交流イベントとして地域住民の皆さまと一緒に広く、多彩なメニューで対応した。						
成果 参加者の声など	多くの地域住民の皆さまや事業者の支援を受け実現できた。協力事業者から事業に感心されると共に、職員が楽しそうに運営していることは参加者へ好影響がありそうだと言葉を頂いた。						
課題と展望	地域社会における共生を目指すため、障がいの有無に関わらず働きかけが必要だが、様々な状況の方がおり、訴求の仕方が違う為、効果的な訴求方法については改めて考えていきたい。次年度以降も発展開催できる様に努めていく。						

事業名 テーマ	青少年体験教室 キッズ交流ステーション講演会 きょうだい児への向き合い方 他		対 象	障がいのある 子どもとその家族 他		定員	なし
ね ら い	障がいのある子どもとその家族に向けて、同じ様な特徴・個性を持つ方々をつなげる機会を作る。また、親子・家族で孤立しない様に相談・情報交換の場を開設し、交流を支援するとともに、地域社会における共生に向けた活動も行う。						
協力機関 及び団体	NPO法人しぶたね ふじ学園		特 色 位置づけ	地域社会における共生の推進		SDGs の目 標No	3・10
会 場	内牧地区公民館		教 材 資 料 等	NPO法人しぶたね 配布資料他			
実施ま での 経 過	11月	講演候補検討 チャンネル探索 講師決定・講演承諾・ 講演内容決定・ 事務手続き・募集開始 会場設営準備	PR方法	学校、事業者経由での働きかけ SNS			
	12月 1月 2月		受付方法	窓口および電話 学校、事業者経由			
月日(曜)	時 間	内 容	方法	参加者			講師・助言者の職名 氏 名
回 数	総時間数			男 計	女 計	合計	
2月10日(土)	13:00 ～16:00 1部 13:00 ～14:30 2部 15:00 ～16:00	全体 きょうだい児への向き合い方 ～大人の出来る工夫～ 障がいのある子ども向けの 療育・養育サービス について	講演 Q&A 内訳 内訳	35	53	88	NPO法人しぶたね 代表 清田悠代 真利慎也 ふじ学園 園長 高野香里 保育士 五十嵐有紀子
1回	3時間0分			35	53	88	
企画運営上 の 工 夫	障がいのある子どもとその家族の交流会「キッズ交流ステーション」の中で繰り返し話題となった「きょうだい児」「療育・養育サービス」について、それぞれ、専門家に講演をいただくとともに、Q&Aを通して相談できる場の提供を行った。						
成 果 参加者の 声 など	参加者は、障がいのあるお子さんの家族の他、大学教員、保健所職員、研修を兼ねた事業者など多様であった。「講師の実体験に基づく講演内容は、自然体できちんと会話ししていくことの大切さを教えられた」など参加者からも大好評であった。貴重な講師の招へいに多くの参加者からもねぎらいを頂くこともできた。						
課題と展望	講師選び、招へいに伴うコスト負担など当初は苦労した。今後は、早い段階から講師選 びを行い、講演会を開催していきたい。						

事業名 テーマ	青少年体験教室 小中学生の職業探索③ ドローンを学び操縦体験を行おう		対象	小中学生と その保護者		定員	40名
ねらい	①職業観の育成支援②保護者とのコミュニケーションの促進③地域内の官学連携を通して地元・地域愛の育成を行う。						
協力機関 及び団体	日本工業大学		特色 位置づけ	官学連携		SDGs の目 標No	4・8
会場	日本工業大学埼玉キャンパス		教材 資料等	テキスト 体験用ドローン			
実施までの経過	4月	チャンネル開拓	PR方法	公民館だより SNS 近隣小学校・保育所案内 他			
	5月	大学訪問・趣旨説明					
	6月～7月	実施企画	受付方法	窓口および電話			
	8月	チラシ作成・募集					
	9月	依頼書・教材検討・作成					
	9月	プログラム決定					
月日(曜)	時間	内 容	方法	参加者			講師・助言者の職名 氏 名
回数	総時間数			男 計	女 計	合計	
9月30日(日)	10:00～12:30	ドローン学習&操縦体験	講義 実演	23	15	38	日本工業大学 基幹工学部教授 平栗健史
	13:30～14:30	工業大学キャンパスツアー	見学				
1回	3時間30分			23	15	38	
企画運営上の工夫	学校教育では触れることの少ない様々な職業体験（見聞）を通して、社会の活動を知る事を目的に大学の先生という専門家にお願ひし、大学内にて事業を実施した。また、保護者との触れ合い、特に父親と一緒に参加出来る様に開催を休日とした。対象は小学生に人気のある職業に関係することと併せ、地域に関係のある、企業・大学・学校・市役所の仕事の存在を知り地元愛を育成する様に設定した。						
成果 参加者の声など	大学という馴染みが薄い環境で難しい講義を聞く事は、ハードルが高いと思われたが、保護者が子どもに解説する姿を垣間見ると、保護者とのコミュニケーションを深めるというねらいは達成できた様に思う。一方、実体験になると、初めて顔を合わせた子どもたち同士がプログラミングの相談をするなど新たな様子が伺えた。繰り返し参加者も増えてきたことも喜ばしいと考えている。						
課題と展望	年初に行った子どもたちが興味を持っている職業の調査結果を受け、関係各所に事業の働きかけを行ったが受け入れていただけたところが少なかった。当シリーズを拡大していくためにも、協力していただける事業者の発掘作業と地道な調査研究を継続していきたい。						

事業名 テーマ	青少年体験教室 小中学生の職業探索④ めざせ！ダンサー		対象	小中学生とその 保護者		定員	20組
ねらい	①職業観の育成支援②保護者とのコミュニケーションの促進③地域の産官連携を通して地元・地域愛の育成を行う。						
協力機関 及び団体			特色 位置づけ	保護者と子どもの 参加		SDGs の目 標No	4・5・10
会場	内牧地区公民館（講堂）		教材 資料等	テキスト			
実施までの経過	12月上旬 事前打ち合わせ 12月中旬 2月1日 公民館だより発行 2月3日 受付開始 2月上旬 講師依頼書送付 SNS配信 3月3日 実施		PR方法	公民館だより チラシ SNS			
			受付方法	窓口および電話			
月日(曜)	時間	内 容	方法	参加者			講師・助言者の職名 氏 名
回数	総時間数			男	女	合計	
3月3日（日）	13:00～15:30	ダンス	体験	13	53	66	高橋 理乃
1回	3時間30分			13	53	66	
企画運営上の工夫	単なる体験とするのではなく、将来の職業として視野に入れた事業とした。またSDGSの観点からも、性差のない職業をチョイスした。保護者と子どもたちのやりたい気持ちを応援するための機会となるよう、親子での参加を基本とした。						
成果参加者の声など	SNS配信により、地区外からの応募も多数あり当初の定員を大きく超えての開催となった。年齢幅があったが、先生のご指導により問題なく開催出来た。アンケートでも『ダンスが好き・やってみたかった・もっと踊りたい』という意見が多数寄せられ、子どもたちの関心の高さがうかがえた。保護者同伴とした中で、父親の参加も数件あり、親子で職業を考える契機となったようだ。						
課題と展望	子どもの夢を応援する職業体験シリーズは、今後も継続していく予定であるので、子どもたちのニーズを掴むことがポイントとなる。学校などと連携し、また年齢も近い青年層へ協力を仰ぐことも検討の余地がある。						

事業名 テーマ	青少年体験教室 小中学生の職業探索⑤ 飼育係・獣医師になるには		対 象	小学生と その保護者		定員	最大40名
ね ら い	①職業観の育成支援②保護者とのコミュニケーションの促進③地域内の産官連携を通して地元・地域愛の育成を行う。						
協力機関 及び団体	東武動物公園 動物園事業部、業務部		特 色	保護者と子ども の参加 産官連携		SDGsの 目標No.	4・8
会 場	東武動物公園 「森の教室」 他		教 材 資 料 等	獣医体験用キット聴診器/注射器 公民館テキスト			
実施ま での 経 過	8月	チャンネル調査（職業探索） 東武動物公園訪問・趣旨説明 実施企画、体験内容検討 公民館だより掲載 参加者募集 教材検討・作成 最終プログラム決定 企画、体験内容確定	P R 方法	公民館だより S N S			
	11月 11月～1月 1月 2月 3月		受付方法	窓口および電話			
月日(曜)	時 間	内 容	方法	参加者			講師・助言者の職 名 氏 名
回 数	総時間数			男 計	女 計	合計	
3月23日（土）	9：30～12：45	ふれあい、獣医師体験 動物園裏側見学 動物クイズ		16	16	32	東武動物公園
1回	3時間15分			16	16	32	
企画運営上 の 工 夫	学校教育では触れることの少ない職業体験（見聞）を通し、社会の活動を知る事を目的に動物園の専門家と協業し、現地にて事業を実施できるよう交渉した。また、父親と一緒に参加出来る様に開催を休日とした。幼児家庭教育学校と併せて開催し、幅広い子どもの層に効率よく事業展開を行うことを試みた。						
成 果 参加者の 声 など	近くの動物園ということもあり、応募数が少ないのではとの心配もあったが、普段経験できない、獣医師体験、獣舎の裏側からの動物の生態見学などを企画の中に入れたことにより、多くの方に参加頂いた。アンケート結果からも満足度は高かった。リピーター作り（公民館活動への興味を持つ層の拡大）につながったと考える。						
課題と展望	当事業を拡大していくため、協力者の早い段階からの発掘、天候との関係、参加費の事前徴収、意見収集の効率化など事務的の改善ポイントについて何点か見えてきたので今後の解決すべき検討課題としたい。						

事業名 テーマ	音楽鑑賞会 うちまき緑のコンサート	対象	一般	定員	なし		
ねらい	市内の文化団体が、日頃の活動の成果を発表し、地域の方々との交流を図る。 音楽環境を醸成することによって、地域の文化芸術の振興を目的とする。						
協力機関 及び団体	市内及び県内で活動する音楽団体	特色 位置づけ	重点事業	SDGs の目 標No	11		
会場	内牧地区公民館 講堂	教材 資料等	プログラム				
実施までの経過	5月上旬 出演団体交渉・講師依頼 6月1日(水) 送付 7月1日(土) リハーサル 7月2日(日) 前日準備・リハーサル実施	PR方法	公民館だより				
		受付方法	窓口および電話				
月日(曜)	時間	内容	方法	参加者		講師・助言者の職名 氏 名	
回数	総時間数			男 計	女 計		合計
7月2日(日)	13:00～16:00	出演2団体による発表	鑑賞	22	32	54	松実高等学園 春日部市吹奏楽団
1回	3時間			22	32	54	
企画運営上の工夫	出演団体に依頼し活動の成果発表の場とする。また、利用者の中でも市内での活動が活発で知名度のある団体に声掛けをした。ジャンルの違う団体へ依頼をして幅広い世代を対象におこなうようにした。ジャンルが違うことにより楽器の入れ替え等の時間がかかるためスケジュールにゆとりを持たせた。						
成果参加者の声など	運営について感染予防対策など安心して鑑賞でき、また参加したいとの声が多かった。主な感想は以下のとおり。 ・世代に合ったジャンルでよかった。アコーディオン、また聴きたい。 ・4月に引っ越して来ました。音楽とても癒しになります。						
課題と展望	次回への期待の声があったので、出演交渉を丁寧に進めていきたい。前年度と同じ各部毎のチケット配布としたが、「受付がスムーズでよかった」との声多く、次回はチケットなしの対応も検討したい。駐車場の案内について、説明のできる職員の配置が必要であった。事前に役割分担についての打ち合わせが重要と思われる。						

事業名 テーマ	内牧ふれあい講座		対象	高齢者		定員	なし
ねらい	高齢者が健康で生きがいのある楽しい人生を送るための講座開催による学習機会を作る。						
協力機関 及び団体	共催 いきいきクラブ内牧地区連合会		特色 位置づけ	高齢者同士の交流及び健康・生きがいづくり		SDGs の目標No	3
会場	内牧地区公民館 館外		教材 資料等	レジュメ			
実施までの経過	5月 6月中旬	いきいきクラブ打合せ 募集開始	PR方法	公民館だより			
	11月 12月中旬	講師打ち合わせ 募集開始	受付方法	各クラブ会長による取りまとめ(各クラブ会員) 窓口および電話(一般)			
月日(曜)	時間	内 容	方法	参加者			講師・助言者の職名 氏 名
回数	総時間数			男 計	女 計	合計	
7月12日(水)	13:30～15:30	レクリエーションスポーツ	体験	5	20	25	内牧地区公民館職員
7月26日(水)	13:30～15:30	レクリエーションスポーツ	体験	5	20	25	内牧地区公民館職員
1月20日(土)	13:30～15:30	俳句教室	講義	5	0	5	磯谷冬日
2月10日(土)	13:30～15:30	俳句教室	講義	4	1	5	磯谷冬日
4回	8時間			19	41	60	
企画運営上の工夫	今年度もいきいきクラブ内牧地区の梅田会との共催により実施した。 参加者を一般とクラブ会員で別に募集し、会員の参加申込みはクラブで取りまとめをお願いした。 時期を夏冬に分けて例年とは違う形式にした。						
成果 参加者の声など	レクリエーションスポーツでは、運動を中心にプログラムを組んだことで好評を得た。 俳句教室では「俳句に挑戦するのは難しかったが楽しく学ぶことができた」と今までと違った形式で行ったことにいいリアクションが得られた。						
課題と展望	地区全体の高齢化によりいきいきクラブ連合会の会員数が減少傾向にあり参加者の確保が難しくなっている。						

事業名 テーマ	みんなで考える内牧スマートフォン活用講座	対象	内牧地区内の概ね60歳以上の方	定員	15名程度		
ねらい	情報化社会が広がる中で、誰でもスマートフォン・PCを活用し行政の様々なサービスが受けられるようにする。						
協力機関 及び団体	行政デジタル改革課	特色 位置づけ	高齢者デジタル デバйд対策事業 重点事業	SDGs の目 標No	4・10		
会場	内牧南公民館 大会議室	教材 資料等	テキスト				
実施までの経過	3～5月 4月 5月中旬 7月 8月 第1回打合せ 公民館だより4月号掲載 申込受付開始 第2回打合せ 公民館だより8月号掲載 申込受付	PR方法	公民館だより 各クラブ会長へ会員への周知を依頼				
		受付方法	窓口および電話				
月日(曜)	時間	内 容	方法	参加者			講師・助言者の職名 氏 名
回数	総時間数			男 計	女 計	合計	
6月15日(木)	13:30～15:30	応用編	講義	1	8	9	内牧地区公民館職員
9月21日(木)	13:30～15:30	基礎編	講義	6	14	20	行政デジタル改革課 職員
2回	4時間			7	22	29	
企画運営上の工夫	スマートフォンを活用し行政の様々なサービスが受けられるようにするため、応用講座では、独自にテキストを作成し、行政デジタル改革課職員が自ら講師になり対応した。行政デジタル改革課との連携、生涯学習推進委員の皆さまや中央公民館など他公民館の職員と協業して実施し、ノウハウや課題の共有を行った。						
成果 参加者の声など	応用編・基礎編ともに参加したことで「優しく教えていただきスマートフォンを身近に感じることが出来た。」「スマートフォンに触る機会が増えた。」という声があった。						
課題と展望	企業との連携が難しい状態となっているため職員で対応できる範囲でしか講義を行うことができない。日常的な疑問などを公民館職員のわかる範囲で相談できるような取り組みができるとよい。自治会を通した働きかけを行い、未参加層を掘り起こす、講座内容の再検討を行うなどして、スマートフォン操作習熟度の底上げを図っていきたい。						

事業名 テーマ	教養講座 オリジナル文字盤時計作り		対 象	成人一般		定 員	15名	
ね ら い	・創作活動を通して子どもたちの生きる力を育む。 ・親子世代を対象として活動を行うことで公民館利用拡大につなげる。							
協力機関 及び団体	生涯学習推進委員		特 色 位置づけ	重点事業		SDGs の目 標No	4・11	
会 場	内牧南公民館		教 材 資 料 等	時計、CD-R、PC、スマートフォン、 プリンター				
実施ま での経 過	12月 2月 2月中旬	講師と打ち合わせ 公民館だより2月号発行 参加申込み開始	PR方法	公民館だより、ポスター掲示				
			受付方法	電話または窓口で申込み(先着順)				
月日(曜)	時 間	内 容	方法	参加者			講師・助言者の職名 氏 名	
回 数	総時間数			男 計	女 計	合計		
11月26日(土)	13:30～15:30	クラフト・Webサイトの紹介	体験	5	9	14	三輪 勝	
1回	2時間			5	9	14		
企画運営上 の 工 夫	クラフトだけではなく、スマートフォンでの写真加工の方法なども講義内容に入れること で推進委員の得意な内容の講座にした。 親子を対象としたことで公民館利用者の拡大を図った。							
成 果 参 加 者 の 声 な ど	アンケート結果 ・子どもでもでき、楽しく参加することができた。 ・公民館の事業に参加するのが初めてでいい経験になった。 ・自分でパソコンを使ってこんなものが作れることを知れてよかった。							
課題と展望	クラフトのレシピを増やして実施回数を増やす。 広報に力を入れ近隣の小学校へのチラシの配布を積極的に行う。							

事業名 テーマ	教養講座 うちまき歴史探訪ツアー 「遺跡の宝庫内牧公園と黒沼代用水を歩く」		対象	一般		定員	20名	
ねらい	地域住民に内牧の史跡を紹介し、郷土愛を深めてもらうとともに、歴史を学ぶことで教養の向上を図る。また、地域住民以外の方にも参加していただき、内牧の魅力をPRする。							
協力機関 及び団体			特色 位置づけ	重点事業		SDGs の目標 No	4・11	
会場	内牧地区内 (雨天時)中止		教材 資料等	しおり(配布)、壁新聞(館内掲示)				
実施までの経過	12月上旬 打ち合わせ 2月下旬 講師依頼 現地踏査		PR方法	公民館だより SNS チラシ				
			受付方法	内牧地区公民館の窓口又は電話で受付				
月日(曜)	時間	内 容	方法	参加者			講師・助言者の職名 氏 名	
回数	総時間数			男	女	合計		
				計	計			
3月14日(木)	12:30～15:30	内牧地区内の散策	体験	5	12	17	内牧フオークロア 高橋 昌子	
1回	3時間			5	12	17		
企画運営上の工夫	事前に講師と打ち合わせや現地踏査を重ね、交通量が多いところの確認を行い、参加者の安全や健康面を第一に考えたルートを設定した。参加者が事業終了後も学びを継続できる資料として残せる「しおり」として探訪する史跡の解説文を作成し、当日参加者に配布した。拡声器を用意し講師の説明が聞き取りやすいようにした。							
成果 参加者の声など	継続して行っている中で、リピーター、新規参加者がバランスよく参加していた。 参加者からの声は次のとおり ・内牧の歴史を再確認できた。 ・土日開催を検討してほしい。							
課題と展望	参加者は集まったが屋外での実施のため聞き取りにくい状況があった。文化財保護課の職員と連携し、より充実した内容したい。							

事業名 テーマ	趣味の講座 親子そば打ち教室		対象	親子		定員	10組	
ねらい	体験活動を通して親子での交流の機会を提供する。							
協力機関 及び団体	蕎麦の会 藤		特色 位置づけ			SDGs の目標 No	4・11	
会場	内牧地区公民館		教材 資料等					
実施までの経過	12月 2月上旬 2月中旬 蕎麦の会 藤 打合せ 公民館だより2月号掲載 参加申し込み		PR方法	公民館だより1 ポスター掲示				
			受付方法	窓口および電話				
月日(曜)	時間	内 容	方法	参加者			講師・助言者の職名 氏 名	
回数	総時間数			男	女	合計		
				計	計			
3月17日(日)	10:00～13:00	蕎麦打ち	実習	11	12	23	蕎麦の会 藤	
1回	3時間			11	12	23		
企画運営上の工夫	公民館利用サークルである蕎麦の会藤に講師をしていただいた。 小さな子でも参加できるように使用する用具を工夫した。 家庭でも作れるように専用の道具ではなく日常的なものを使用した。							
成果 参加者の声など	アンケート結果 ・家ではなかなかできない体験なのでありがたい体験でした。 ・丁寧に教えていただき家庭でも作ってみたいと思った。 ・楽しく勉強になるイベントでした。							
課題と展望	今後も料理教室系の企画は続けていくことが望ましい。 調理できる場所が少ないため参加できる人数が少ないことが問題である。							

事業名 テーマ	令和5年度 市民体育祭 第68回 内牧地区大会	対象	地区住民	定員	なし		
ねらい	地域住民の健康増進・体力向上、住民相互の交流を図る。						
協力機関 及び団体	主催:春日部市・内牧地区自治会連合会 主管:内牧地区体育振興会 後援:春日部市コミュニティ推進協議会	特色 位置づけ	重点事業	SDGs の目 標No	3		
会場	内牧小学校 校庭	教材 資料等	競技台本、プログラム				
実施までの経過	5月末 総会 6月17日(土) 代表者会議、プログラム編 成会議 9月24日(日) 役員会 10月7日(土) 前日準備	PR方法	公民館だより 8月末にプログラムを全戸配布				
		受付方法	地区対抗種目の出場選手については地区毎に取りまとめ、所定の申込書で内牧地区公民館へ申し込む。自由参加種目は当日招集する。				
月日(曜)	時間	内容	方法	参加者			講師・助言者の職名 氏 名
回数	総時間数			男 計	女 計	合計	
10月8日(日)	8:30～12:00	開会式 自由参加競技 地区対抗競技 閉会式	競技	300	300	600	大会役員 競技役員
1回	3時間30分			300	300	600	
企画運営上の工夫	感染症対策のため、半日開催とした。						
成果 参加者の 声など	台風やコロナによる中止が続いたため、数年ぶりの開催となったが、自治会、体育振興会等関係団体のご協力のもと、概ねスムーズに運営できた。						
課題と展望	競技役員や選手の選出について、実行委員の負担増がうかがえる。 若年層が参加しやすい企画や周知の工夫が必要である。						

事業名 テーマ	内牧地区文化祭		対象	公民館利用団体・地域住民・一般	定員	なし	
ねらい	地区内で文化的活動をしているサークル・個人の紹介と発表の場を設け、地域還元を図ると共に、多くの方に芸術や地域文化の素晴らしさを味わってもらう。						
協力機関 及び団体	主催:内牧地区自治会連合会 協力:内牧小学校(児童作品展示)他		特色	重点事業	SDGsの 目標No.	4・11	
会場	内牧地区公民館		教材 資料等	進行台帳、プログラム等			
実施までの経過	6月 遊学フェスティバル参加事業申込 8月 参加申込開始 9月初旬 参加申込み締切 10月初旬 調整会議 11月初旬 各団体リハーサル 11月11日(土) 前日準備		PR方法	(1)公民館だより10月号掲載 全戸配布(11月1日付) (2)ポスター掲示及び配架 (3)安心安全メール・ツイッター配信			
			受付方法	参加団体は参加申込書を記入し、 申し込む。 当日の来場は自由			
月日(曜)	時間	内 容	方法	参加者			講師・助言者の職名 氏 名
回数	総時間数			男 計	女 計	合計	
11月1日～11日 11月12日(日)	9:00～17:00 10:00～16:00 16:00～16:30	作品展示 舞台発表 作品展示 後片付け	展示 実演 展示	140	200	340	各参加団体 ・芸能の部(12団体) ・実演の部(1団体) ・展示の部(3団体) ・内牧小学校 ・児童福祉施設
1回				140	200	340	
企画運営上の工夫	参加者からの声もあり実行委員会形式で開催。展示部門を11月の早い時期から開催し多くの方に観てもらえるようにした。また他事業と連携して様々な教育機関から展示物を募集した。販売部門においても他事業と連携して展開したことで例年よりもブースを増やした。						
成果 参加者の 声 など	各部門に昨年度よりも多くの来館者があり、好評を得ていた。 展示の期間が長かったためじっくり見ることができた。 販売するものの種類が増えたことにより参加者の満足度も高かった。						
課題と展望	プログラムの時間と出演者の時間を早めに進めたいという要望に齟齬が生じ、観覧者からは時間通りにプログラムを開催してほしいという声が上がった。 新規の参加者が参加しにくい状況になっているため、例年参加している団体と方針を考える必要がある。						

内牧地区 21

事業名 テーマ	公民館利用者のつどい 人権問題研修会 自衛消防訓練		対 象	公民館利用団体 代表者及びサー クル会員		定 員	なし
ね ら い	公民館利用者相互の交流を図り、公民館活動の活性化を図るとともに、公民館利用の 基本事項の確認等で利用の適正化を促す。併せて、人権意識の啓発及び防災意識の 向上を図る。						
協力機関 及び団体	春日部市消防本部		特 色 位置づけ			SDGs の目標 No	4・11
会 場	内牧南公民館 内牧地区公民館		教 材 資 料 等	公民館利用者のつどい資料			
実施ま での 経 過	12月 公民館だよりにて周知 利用者へ通知の配布		PR方法	公民館だより12月号掲載 窓口にて通知配布			
			受付方法	当日、窓口にて			
月 日 (曜)	時 間	内 容	方法	参加者			講師・助言者の職名 氏 名
回 数	総時間数			男 計	女 計	合計	
3月2日(土)	10:30～12:00	公民館利用者のつどい 人権問題研修会 自衛消防訓練 (内牧南公民館) 15:00～16:30 公民館利用者のつどい 人権問題研修会 自衛消防訓練 (内牧地区公民館)	会議 訓練	2	4	6	公民館職員
			会議 訓練	4	6	10	公民館職員
2回	3時間			6	10	16	
企画運営上 の 工 夫	開催通知は利用団体の来館日に手渡しとした。						
成 果 参加者の 声 など	利用者へは意見・要望などを提出してもらった。 次の意見等があった。 ・機材も充実しており、使いやすいです。 ・生きがいを感じて皆さん通ってきています。						
課題と展望	利用者へインターネット予約のレクチャーなど実践的な部分を含めた方が利用の促進 につながると考えられる。また、地区センター機能の追加によることでの利用に関する 意見収集は必要である。						

事業名 テーマ	小学生期家庭教育学級	対象	小学生の保護者 及び一般	定員	20名		
ねらい	小学生期における家庭教育の重要性を認識し、親として望ましいあり方について学ぶ。						
協力機関 及び団体	共催:内牧小学校PTA	特色 位置づけ		SDGs の目標 No	3・17		
会場	内牧地区公民館	教材 資料等					
実施までの経過		PR方法					
		受付方法					
月日(曜)	時間	内容	方法	参加者			講師・助言者の職名 氏名
回数	総時間数			男 計	女 計	合計	
		中止					
1回				0	0	0	
企画運営上の工夫							
成果 参加者の声など							
課題と展望	数年単位で実施できていないため学校・PTAと連携し、開催の検討をする必要がある。						

事業名 テーマ	内牧一区自主防災訓練	対象	内牧一区 地区内住民	定員	なし		
ねらい	年に1度の防災訓練を行い、地区防災会活動の支援をする。 訓練を行うことにより安全な生活を送ることができる。 訓練を通して災害時の対応を学ぶ機会とする。						
協力機関 及び団体	内牧一区自主防災会、危機管理防災課、内牧地区赤十字奉仕団	特色		SDGsの 目標No.	11・17		
会場	内牧南公民館 和室、交流室、駐車場	教材 資料等	春日部市災害対策のすすめ				
実施までの経過	3月下旬 日程調整ほか交渉等 5月11日(木) 内牧一区自主防災会、危機管理防災課及び公民館職員打合せ	PR方法	内牧一区自治会内の回覧板等で周知				
		受付方法					
月日(曜)	時間	内容	方法	参加者			講師・助言者の職名 氏 名
回数	総時間数			男 計	女 計	合計	
6月3日(土)	9:00～10:00	情報収集伝達訓練 (雨天のため、実地訓練は中止。)		43	44	87	
1回	1時間			43	44	87	
企画運営上の工夫	地区自主防災組織及び危機管理防災課との打合せに当初から参加し、情報共有しながら事業を進めてきた。						
成果 参加者の声など	以下のような声があった。 ・実地の訓練が雨天により中止となってしまう残念だった ・災害時には正確な情報伝達が大切だと感じた。						
課題と展望	危機管理防災課との日程調整がつかなかったため順延することができず、実地訓練を実施できなかった。次回は早期に日程調整を行う必要がある。						

事業名 テーマ	スポーツ教室 第47回内牧地区 婦人バレーボール・ソフトバレー大会		対象	内牧地区在住 18歳以上の女性	定員	なし
ねらい	地区内の女性たちが、スポーツを通して交流を図る					
協力機関 及び団体	主催:内牧地区体育振興会 共催:内牧地区公民館、内牧南公民館 協力:共栄大学バレーボールサークル		特色 位置づけ		SDGs の目 標No	3
会場	共栄大学 体育館 内牧地区公民館 体育室(練習会場として)		教材 資料等			
実施までの経過	5月21日 体育振興会役員会 6月 3日 代表者会議 6月10日～ 内牧小学校及び 内牧地区公民館にて練習 6月24日 前日準備		PR方法	公民館だより		
			受付方法	代表者会議で参加チーム名簿を提出する		
月日(曜)	時 間	内 容	方法	参加者		講師・助言者の職名 氏 名
回 数	総時間数			男 計	女 計	合計
6月18日(日)	8:00～16:00	バレーボール試合 ソフトバレーボール試合	試合	94	152	246
1回				94	152	246
企画運営上の工夫	令和2・3・4年度はコロナウイルス感染拡大防止のため中止だったが、今年度は感染防止対策を十分に講じた上での開催を計画した。体育振興会のバレーボール部会が企画・運営により実施。会場が共栄大学体育館であることから、公民館利用団体の共栄大学バレーボールサークルに審判等の運営協力を依頼した。					
成果 参加者の声など	経験豊かな体育振興会の運営により、スムーズに大会が進行した。会場の共栄大学体育館は空調設備が整っているため、暑さによる体調不良者は出なかった。参加者から「楽しくプレイすることができた」「久しぶりの試合で、チームメートといい時間が過ごせた」といった声が聞かれた。					
課題と展望	4年ぶりの開催だったためか、参加チーム数が9人制バレーボール2チーム、ソフトバレー8チームのであった。PRを促進するなどして、参加チームを増やしていきたい。9人制バレーボールのプログラム後半に足を痛めた方が数名いたため、十分な準備体操と、体調に合わせた参加を促したい。					

事業名 テーマ	第38回内牧地区少年少女球技大会	対象	内牧地区の小学生	定員	200		
ねらい	地域に育つ子ども達の交流と健康増進を図る						
協力機関 及び団体	主催:内牧地区自治会連合会 主管:内牧ソフトボール連盟 後援:内牧地区体育振興会	特色 位置づけ	地域一体となった青少年の交流、健康増進を図る事業	SDGs の目標No	3		
会場	内牧小学校 校庭	教材 資料等					
実施までの経過	5月 役員会 6月中旬 準備会 7月22日 代表者会議	PR方法	公民館だより 各自治会回覧				
		受付方法	公民館に書類を提出				
月日(曜)	時間	内 容	方法	参加者			講師・助言者の職名 氏 名
回数	総時間数			男 計	女 計	合計	
7月30日(日)	8:00～10:30	ドッジボール競技 キックベースボール競技	実技	100	55	155	
1回	2時間30分			100	55	155	
企画運営上の工夫	PRのため、参加者募集は公民館だより6月号掲載のみならず、各地区や関係団体の方にご協力いただいた。内牧地区自治会連合会と公民館の主催のため、各地区や関係団体の方と連携し、内牧地区全体の事業としての意識付けを行い実施した。						
成果 参加者の声など	猛暑(暑さ指数31超)のため、午前10:30で中断した。						
課題と展望	夏季は猛暑日が多いので、熱中症対策のため、開催時期や会場の見直しが課題である。						

事業名 テーマ	内牧地区福祉大会	対象	地域住民	定員	なし		
ねらい	地域の高齢者同士が互いに支えあい、活力ある地域社会づくりの担い手として活動し、社会福祉の一層の充実と発展に寄与することを目的とする。						
協力機関 及び団体	主催:春日部市いきいきクラブ 内牧地区連合会	特色 位置づけ	地域の高齢者の日 頃の活動の成果を 発表する。	SDGs の目 標No	3		
会場	内牧地区公民館 講堂	教材 資料等	プログラム				
実施までの経過	中止 ※主催者(春日部市いきいきクラブ内牧地区連合会)より中止の連絡あり。	PR方法	内牧地区連合会で地域へ広報と一般参加の受付を行う				
		受付方法	開催時間中の観覧は自由				
月日(曜)	時間	内容	方法	参加者		講師・助言者の職名 氏 名	
回数	総時間数			男 計	女 計		
10月24日(土)			観覧				
企画運営上の工夫							
成果 参加者の声など							
課題と展望	参加者は高齢者であり、歌唱や会食を伴うため、感染症のリスクが大きい。そのため、今後の開催可否を含め、内容を全面的に見直す必要がある。						

内牧地区 27

事業名 テーマ	公民館だより「うちまき」発行	対象	内牧地区内世帯	定員	発行部数 約4,500部		
ねらい	公民館事業のPRや事業報告、地区内社会教育団体の活動PR、地域情報などを地域住民に提供する。						
協力機関 及び団体	内牧地区自治会連合会	特色 位置づけ		SDGs の目標 No	4・11		
会場		教材 資料等					
実施までの経過	発行月の前月中旬に原稿作成・印刷 広報かすかべと隔月同日配布 (偶数月1日発行)	PR方法					
		受付方法					
月日(曜)	時間	内容	方法	参加者			講師・助言者の職名 氏名
回数	総時間数			男 計	女 計	合計	
偶数月1回 特別号2回		主催事業等の情報提供 体育祭・文化祭特別号の発行					
8回				0	0	0	
企画運営上の工夫	内牧南公民館では新規事業を実施したので、その広報を見やすいように工夫した。また、既存の事業や地域情報、事業報告も見やすい紙面になるよう、文字だけでなく、写真や絵などを入れレイアウトを考えた。						
成果 参加者の声など	公民館事業開催の情報だけでなく、地域で実施した催し取材できた場合はその様子も掲載しているので、興味をもって見ていただけている方が多い。						
課題と展望	2か月に1回の発行であるため、特に新規事業の掲載時期は、十分検討する必要がある。						